

第2回 第2期練馬区スポーツ振興基本計画策定懇談会 開催記録

■日時 平成25年10月4日(水) 18:30~20:10

■会場 練馬区役所本庁舎19階 1905会議室

■出席者 (委員 13名)

早稲田大学スポーツ科学学術院准教授	作野 誠一
筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学系教授	柳沢 和雄
公益社団法人練馬区体育協会	石川 正子
練馬区スポーツ推進委員会	石塚 利郎
総合型地域スポーツクラブ	茨田 忍
練馬区レクリエーション協会	牧 真一
練馬区立中学校PTA連合協議会	青柳 直美
練馬区小学校PTA連合協議会	梶 博光
練馬区町会連合会	岡村 宏平
公募区民	鎌田 康男
公募区民	古尾谷 均
公募区民	宮崎 英孝
公募区民	山中 康弘

(練馬区区民生活事業本部 スポーツ振興課)

地域文化部長、スポーツ振興課長

(練馬区スポーツ振興基本計画策定懇談会事務局)

スポーツ振興課職員 2名

(支援事業者)

株式会社創建 2名

■欠席者	練馬区中学校校長会	赤木 宏行
	練馬区小学校校長会	早川 一秀
	練馬区老人クラブ連合会	重田 栄
	練馬区障害者団体連合会	的野 碩郎
	公募区民	長井 詳典

■傍聴者 なし

- 議 事
- 1 区のス^ポーツに関する現状と課題
 - 2 第2期計画の概要
 - 3 施策の体系
 - 4 具体的な取組
 - 5 その他
 - (1) 次回の懇談会の日程等
日時：11月5日（火）午後6時30分～8時30分
会場：本庁舎19階1905会議室
 - (2) その他

- 配布資料
- 資料1 練馬区のス^ポーツに関する現状と課題
- 資料2 練馬区ス^ポーツ振興基本計画（第2期）の概要
- 資料3 施策の体系
- 資料4 取組みの概要および連携の内容
- 参 考 運動・ス^ポーツに関する区民意識意向調査報告書

■要 旨

1. スポーツに関する現状と課題

(座 長) 次第1について事務局に説明を求める。

(事 業 者) 資料1について説明。

(委 員) 指導者の倫理感、スポーツのあり方について課題、反省点等、練馬区として今後のテーマに取り上げるような事柄はあるのか。また、週1回スポーツ実施率は55%という調査結果が得られたが、残りの45%は運動を行わなかったということか。また、2ページ右側の「運動やスポーツを行わなかった理由」のサンプル数が50件というのは、残りの45%の方からの回答としては数が少ないのではないか。

(事 務 局) 調査票の構造上、「運動やスポーツを行わなかった理由」を回答する方は「スポーツの実施頻度」の設問で「スポーツや運動を行わなかった」と回答した方のみとなっており、サンプル数が50となっている。

週1回スポーツ実施率の残りの45%の中には「月に1～3日」、「3カ月に1～2日」、「年に1～3日」の頻度で行っているという回答が含まれており、45%の方が全く運動をしていないわけではない。

(委 員) 「運動やスポーツを行わなかった理由」は「月に1～3日」、「3カ月に1～2日」、「年に1～3日」の頻度で行っている方にも聞いた方が、週1回スポーツ実施率の向上に役立つデータとなるのではないか。

(座 長) 今回の調査ではそのようなデータは整理できていないため、次回の課題としたい。

(事 務 局) 施設の利用状況や要望等を回答者全員に聞いている設問があるため、そこで45%の方の声を拾い上げていけると考えている。いただいたご意見は次回調査の際に参考とさせていただきます。

(委 員) 「運動やスポーツを行わなかった理由」の中で「個人的に時間がとれなかった」と回答する方を減らすことが、週1回スポーツ実施率の向上につながると考えている。また、この回答を選んだ方の中でも物理的に時間を確保できなかったのか、それともプログラムが開催されているタイミングに都合がつかなかっただけなのかという違いを細かく把握することも重要だと考える。次回の調査の際に検討いただきたい。

(座 長) 指導者の倫理について、練馬区はどのように捉えているのかという質問に対して回答を求める。

(事 務 局) 現状、体育協会をはじめ、指導者に対する研修が実施されている。指導者育成という取組みの中で倫理観の向上を図っていきたい。

(委 員) 指導者の問題が取りざたされているが、指導を受ける側の意識の醸成も重要であると考え。両方向の教育に取組み、目標を達成するという姿勢が重要であると考え。

(委 員) 練馬区のスポーツ振興を考えるにあたって、競技団体への取組み等について考えることも重要であるが、より大きな練馬区の方角性について議論の対象を絞っていくべきだと考える。

(座 長) 個人的な見解を集約して施策に落とし込むことは難しい。事務局からの説明にあった、指導者育成の研修の中で倫理観の向上に取組むといった内容にとどめておくべき

だと考える。

(委員) アスリートが魅力を感じるような、例えば、公認陸上競技場のような施設の整備に取り組む考えは練馬区にはあるのか。

(事務局) 現行計画の中で練馬総合運動場の改修を項目にあげており、現在関係各課と調整を行っている。今回の計画でも引き継いで検討を重ねていこうと考えている。

(副座長) スポーツや運動はしなかった人は前回約33%で今回は5.0%となっているが、何か要因は整理できているのか。

(事業者) 今回は東京都の調査に選択肢を合わせており、スポーツの中に散歩などの軽微な運動も含まれている。そのため、スポーツをしなかったという方が少なくなったと考えられる。

(事務局) そのほか、前回の調査では、はじめに運動をした/しないを聞いてからその頻度を聞いているが、今回は種目の一覧にチェックをした後にその頻度を聞いているため、散歩などの項目にチェックがしやすくなっていたため、このような数値となったと考えられる。

(副座長) 今回の調査で「スポーツや運動を行わなかった」と回答した方は本当に何もしなかった人ということになるのか。

(事務局) そのようになっている。

(座長) 庭球場の数が平成23年から平成24年にかけて減っているが、要因は整理できているのか。

(事務局) 日本銀行石神井運動場のコートが改修工事の期間中使用できなかったため、休場ということで数が減っているが、なくなったわけではない。

2. 第2期計画の概要

(座長) 次第2について事務局に説明を求める。

(事務局) 資料2について説明。

(座長) 資料2について質問はあるか。

(委員) 基本理念の中で人自身のことにも触れて、「スポーツの推進を通じて」の後に「健全な精神を養うとともに」という表現を追加してはどうか。

(委員) 同様の視点であるが、もう一つの案として「スポーツの推進を通じて」の後の「人」の部分で「豊かな人間形成」という表現を追加してはどうか。

(座長) ご意見を参考に事務局と検討する。

(委員) 国のスポーツ振興基本計画の表現との兼ね合いなどもあるので、事務局一任として検討をお願いしたい。

(委員) 数値目標はもう少し具体的に、世代ごとの週1回スポーツ実施率を設定してはどうか。その上でトータルの目標に対して実現を図るというストーリーがあってもよいのではないか。

(委員) 分析の中で、細かく数値を把握する必要があると思うが、基本的な考え方を示す目標の中では、細かい数値の表現は馴染まないように感じる。

(委員) 全体としてみる大きな目標なので、細かい表現はなくてもよいのではないか。

- (委員) 分析の中で細かな数値を把握していただきたい。
- (委員) 障害者の運動やスポーツへの参加率は低いという実感がある。練馬区の週1回スポーツ実施率が55%という中で、障害者の実施率を把握しているのか。これからの事を考えると、この数値も重要だと考えている。
- (事務局) 調査対象者を無作為に抽出しており、また、設問で障害の有無を聞く設問がなかったため、把握できていない。今後の取組みの中で把握していければと考えている。

3. 施策の体系、4. 具体的な取組

- (座長) 次第3、4について事務局に説明を求める。
- (事務局) 資料3、4について説明。
- (座長) 資料3、4について質問はあるか。
- (委員) 練馬区内にある7つの体育館以外に土足で運動できるような設備があればよいと考えている。屋内で気軽に運動できる環境が身近にあることはこれから重要になると考えている。また、体育館を拠点に指導者を配置できれば、各学校の教員が引率することで質の異なる指導を生徒が受けることが可能になるのではないか。
- (座長) ご意見を参考に事務局と検討する。
- (委員) 地域の公共施設という表現は学校も含んでいるのか。また、学校応援団等の事業のほかに、学校単体への補助は考えているのか。
- (事務局) 学校は含んでおらず、地区区民館、青少年館、生涯学習センター等での区主催の事業としての位置付けを対象として考えている。
- (委員) こどもの広場事業なども各学校で取組み方が異なる。その中でスポーツに取り組むという考えは非常に大事だと思うが、現行の運営体制ではすぐの実現は難しいと感じている。子ども達に活発に運動してもらうには、児童放課後等居場所づくり(ひろば)事業に結びつくような取組みが必要だと考えている。
- (事務局) 2年程前からスポーツ推進委員会を通して、4校にて事業を実施している。スポーツ推進委員会としても人材の育成等に取り組んでいる。具体的な提案等があれば、協力して取組み施策に落とし込んでいきたい。
- (座長) 子どもに関する施策はなるべくシンプルに落としこんでいけるよう検討する。
- (委員) 区の助成事業なども、協力して提案していくことができるのか。気軽に提案できる仕組みがあるとありがたい。
- (座長) 予算措置についての表現はできないため、支援するという表現で落とし込んでいきたい。
- (委員) スポーツ推進委員会を通して4校にて実施している事業は、学校応援団の予算で運営している。現状スタッフが不足しており、4校が限界である。そこで68名の練馬区のスポーツリーダーのサポートを仰ぎ、組織づくりに取り組んでいる。将来的には出前事業のようなかたちでの運営を目指している。

- (委員) 70%という週1回スポーツ実施率の目標は成人を対象としているが、小さいうちからスポーツの楽しさを知ることがとても重要だと思う。生活の中にスポーツを溶け込ませるための身近な環境が重要だと考える。そのための習慣化、継続化を目指していくべきではないか。
- (委員) トップアスリートを育てる環境づくりについてだが、アスリート引退後の地域での活躍の場や区民との交流の場の整備にも取り組むべきではないか。
- (副座長) 「スポーツ活動の身近な場の確保・提供」の中で学校施設を考えた時に、地域の共同利用と学校開放と異なる考え方があるが、その点での議論はなされたか。
- (課長) そういった議論はなかったが、10年後を見据えた計画となるので、今後教育委員会と相談し、次回までに考えを詰めていきたい。
- (委員) これからは、地域の共同利用という考え方が重要なのではないかと感じる。
- (座長) 今後、学校の建て替えも見込まれているので、その点を整理しておく必要がある。
- (課長) 練馬区の人口が増加している現状も踏まえて教育委員会の意見を参考にしたい。

5. その他

- (座長) 次回の懇談会について事務局に説明を求める。
- (事務局) 次回の懇談会は11月5日(火)午後6時30分～8時30分、会場は本庁舎19階1905会議室とする。計画の素案は次回懇談会までに事前送付する。

■閉会

以上